

作品番号018-1



設計概要

茨城県水戸市の郊外にこの家は建っています。敷地は幹線道路である国道に面していますが市街化調整区域のため周辺に建物は殆どなく水田が遠くまで見渡せます。建主はこの土地に建物付の土地を購入し自身が経営する通信機器会社の事務所および住居として利用してきましたが建物の老朽化が進んだことや事業拡大の理由より事務所併用住宅として建て替える事になりました。

比較的平坦で明確な方向性を持たない敷地に対して明らかな正面を持たない、あるいはどの面も正面と言えるようなほぼ正方形の平面を持つボリュームを敷地中央に配置しました。内部空間は1階をオフィス、2階を住居としながらもそれぞれが完全には分断しないような連続性を持たせています。

建主の多様な価値観を反映するように採用された様々な素材や色彩と相まって公共性と私性・趣味性をルービクキューブのように内包した空間となりました。交通量の多い国道沿いにおいて地域のランドマーク的な建物になっています。

コンセプト

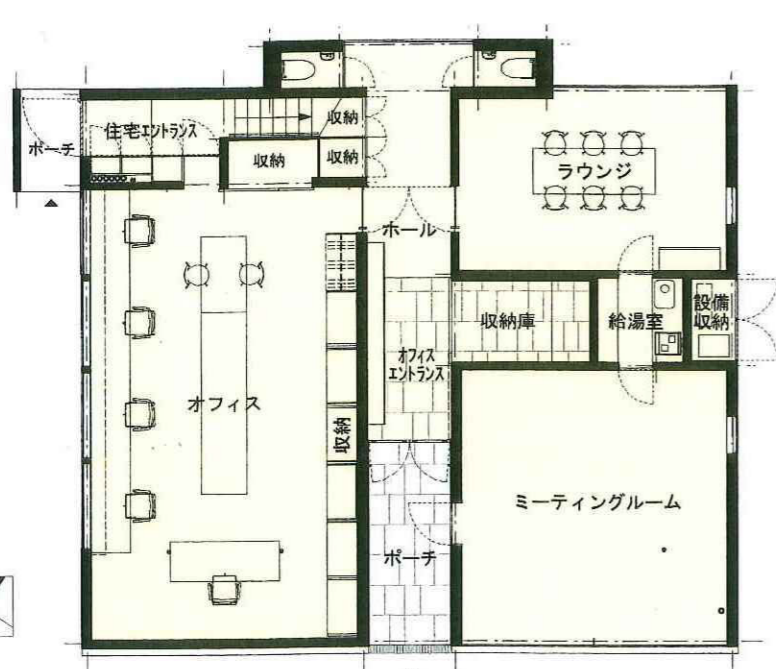
採光・換気

十分な採光を得られるように南北面に大きな開口を設けながら日射による室温の急激な変化や紫外線による仕上材の劣化を防ぐために深く庇を伸ばしています。また同時に雨の日でも窓を開けて十分な換気を行えるようにしています。2階・3階は空間として視覚的にも空気環境的にも連続した空間とし、夏季の熱気の排出をスムーズに行えるようにしています。

暖房

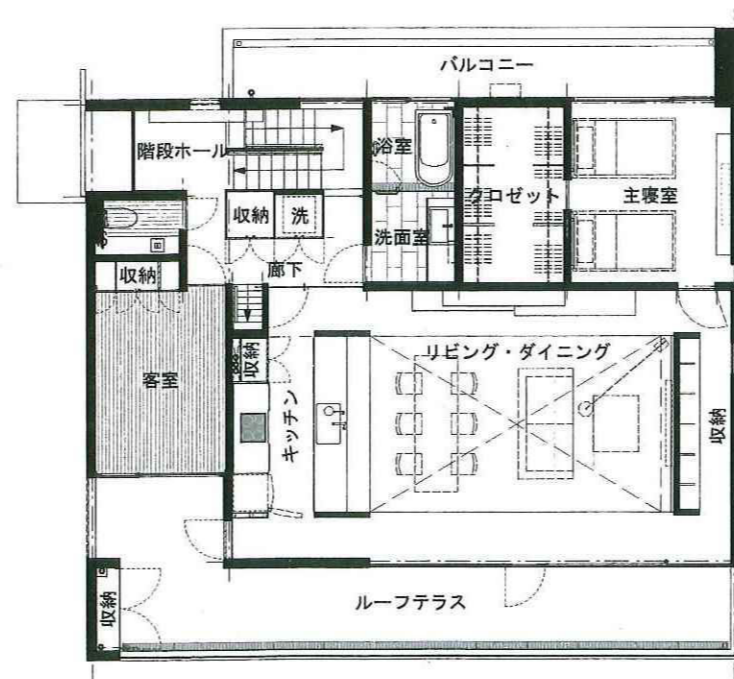
冬季には比較的気温が下がる為暖房方法には性能面・コスト面等様々な検討を行いました。結論としては、

- ・室内温熱変化を少なくできる
- ・有害な物質や温風を発生しない
- ・可動部分がなく故障の可能性が低い
- ・初期コストと維持費がともにリーズナブル等の理由により土中に発熱パネルを敷設する土壌蓄熱床暖房を採用することとしました。深夜電力(5時間通電)により熱容量の大きい土間スラブ下の土壌に蓄わえた熱を日中放熱することにより全室暖房を実現しています。



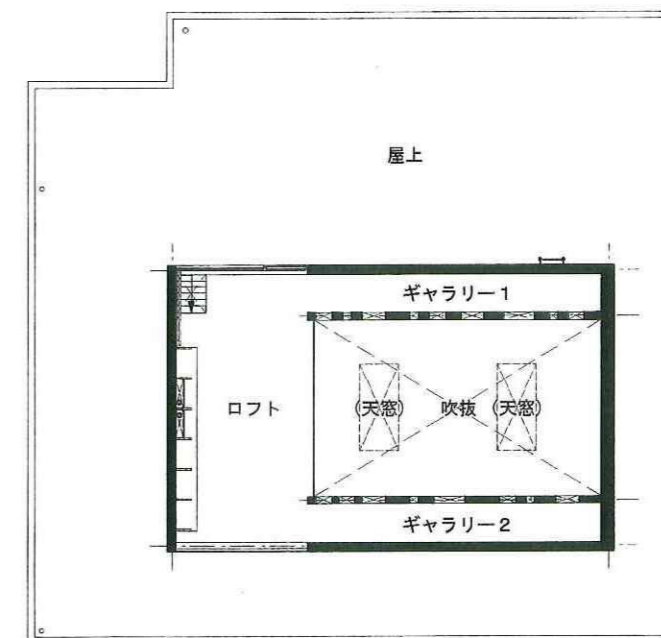
1階は建て主のオフィススペース
1階土間コン下全面に土壌蓄熱暖房用パネルを敷設しました

1階平面図 1/150



2階は建て主の居住スペース
土壌蓄熱床暖房にて1・2階の全館を暖房します

2階平面図 1/150



3階は建て主の趣味コレクションの展示スペース

3階平面図 1/150

作品番号018-2



↑ 2階外部テラス 水平に伸びた深い庇により雨を除き日差しを調整しています 強化ガラスによる手摺が視界を遮りません



2階リビングダイニングルーム↑

南側の外部テラスと大きな開口部により連続している

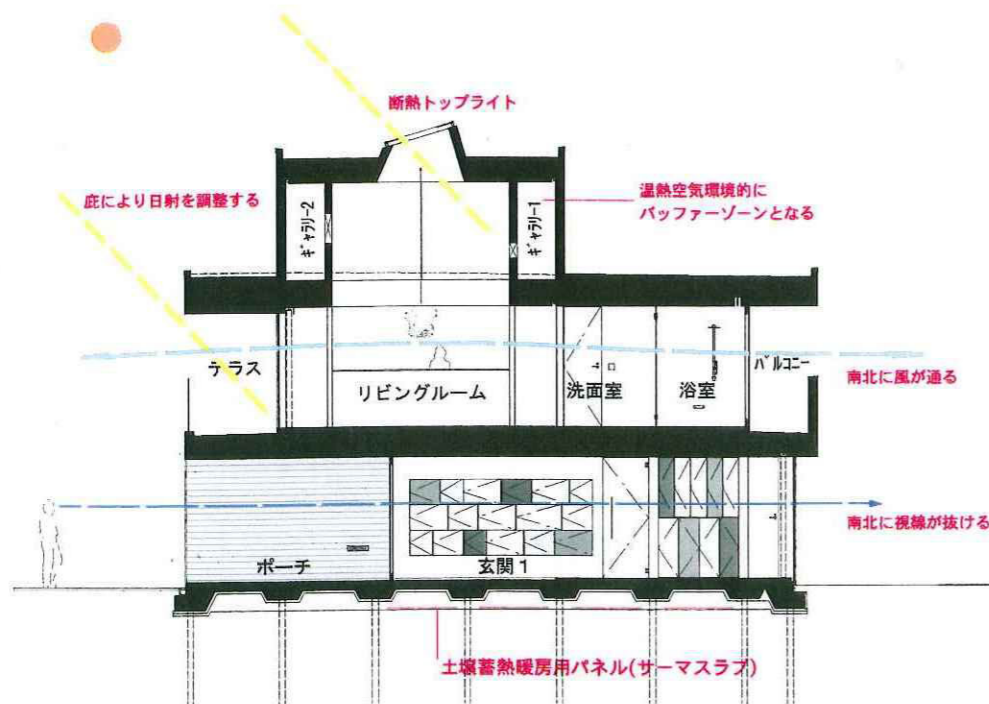


南側外観
深い庇をもつ外部テラスにより
プライバシーをまもりながら開放感も獲得している

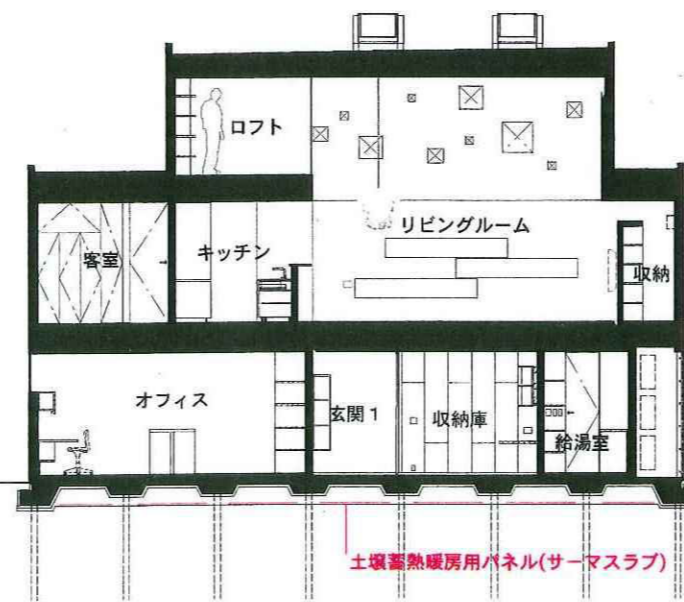
西側外観→

隣家からの視線と西日を避けるために

開口部の大きさと位置を調整



断面図 1/150



2階は建て主の居住スペース
土壌蓄熱床暖房にて1・2階の全館を暖房します

断面図 1/150



作品番号018-3



↑3階ロフト 大小の通気開口によりリビング吹抜の空気環境を調整する

↓2階洗面・浴室
北側バルコニーと連続した明るい浴室
引戸サッシにより十分な通風を確保

2階リビング→



←住宅用の玄関ポーチ
外構は足音による防犯性を考慮し砕石敷
砕石したには雑草対策の防根シートを敷設

↓2階階段ホール
間接照明による足元灯を設置



作品番号018-4



↑1階ミーティングルーム
土足での利用を想定した
カラーコンクリート床



2階階段ホール→
大きなフロストガラスによる採光窓と
ベンチ下に通気用の小窓

↓2階リビング・ダイニングルーム
開放的な吹抜空間
ランダムに穿たれた大小の開口部により2階と3階の通気を確保している



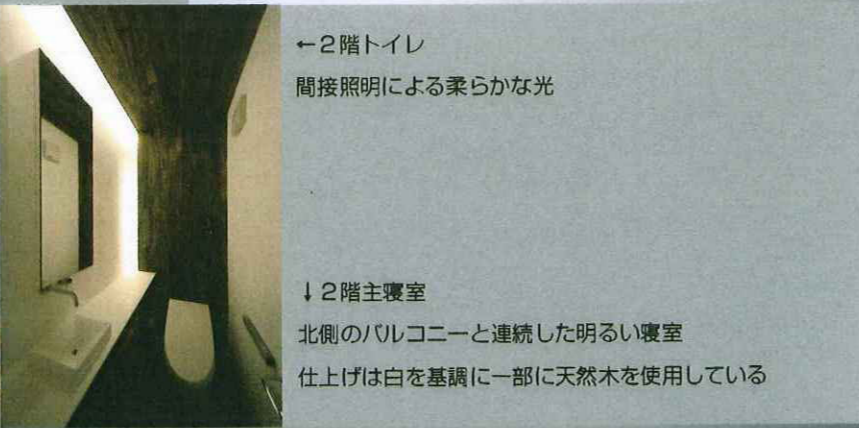
←1階オフィスのエントランス



↓1階オフィス
1階の床下全面に床暖房パネルを敷設



2階階段ホール→
空気の循環を妨げないような
連続した空間



←2階トイレ
間接照明による柔らかな光



↓2階主寝室
北側のバルコニーと連続した明るい寝室
仕上げは白を基調に一部に天然木を使用している



↑1階ラウンジ
オフィスの休憩室 床は清掃やメンテナンスの容易な長尺塩ビシート

←2階キッチン
リビングの吹抜と連続したキッチン
十分な収納量を確保している